

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 21 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	伝統的建造物群樹木保護増殖事業			
担当課係名	文化財 課	文化財 係	作成者	佐藤龍喜
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち		総合計画のページ 99
	基本計画	芸術文化活動の進行と文化財の保護		
	主要施策	文化財の保護と後継者の育成		
予算費目	一般 会計	10 款 教育費	5 項 社会教育費	4 目 文化財保護費
事業期間	平成 21 年度 ~ 平成 年度		新規/継続の区分	新規
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等				
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民、国民のため、文化財を
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	伝建地内樹木の保護と管理を行い、居住者・観光客・市道通行者等の安全確保に努める。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	市道上に被さる枝、枯れ枝等を剪定し風雪等による落下の事故防止、万が一の落下事故対応として樹木賠償責任保険の加入、松の木を松枯れ病から守るための樹幹注入を実施する。

【事務事業の推移】

		項 目	単 位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	
効果	活動指標	指定樹木本数	目標	本		313	
			実績	本		313	
			達成度	%		100.0%	
	成果指標	保護・植栽本数	目標	本		8	
			実績	本		8	
			達成度	%		100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	21年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)					336	
	人 件 費 (B)					81	
	職 員 数					0.01	
	職 員 平 均 人 件 費					8,057	
	(A) + (B) 投下コスト					417	
	財源内訳	国 庫 支 出 金					0
		県 支 出 金					0
		地 方 債					0
		そ の 他					0
		一 般 財 源					417
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)					1,332	
	市民1人当たりのコスト(円)					14	

【事務事業の今までの成果】

松の樹幹注入実施、指定樹木の剪定・枯れ枝除去、樹木保険の加入。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	伝建保存地区の選定も年々増え、これからの選定に向けて保存計画の作成に取り組んでいる自治体もあり、国・県もこれを支援している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	「武家町」の景観に重要な役割はたしている樹木に対し、その必要性に理解を示しながらも、地区住民の高齢化による樹木への対応と、樹木の老齢化を心配している。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	23年度以降、保存地区防災計画を策定し、樹木の調査等により見直しが必要であるが、それまでは現状のまま継続する。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	樹木の保護、景観保全及び市民、観光客等の安全を確保するため、今後も計画的に事業を継続していくべきと考えます。

